

長崎県長崎在宅 Dr. ネット



理事長
藤井外科医院
藤井 卓 院長



副理事長兼事務局長
白髭内科医院
白髭 豊 院長

認定 NPO 法人
長崎在宅 Dr. ネット
<http://doctor-net.or.jp/>

平成15年、長崎市の開業医13人が集まり、互いに連携して24時間体制の往診に対応する「長崎在宅Dr.（ドクター）ネット」を設立しました。

きっかけは、藤井医師が、ある末期がん患者の在宅診療への協力を、白髭医師に相談したことでした。病院から自宅に帰りたい一人の患者を、二人の開業医師が支え合う体制。この取り組みは、緊急時や不在時の医師の負担を軽減すると共に、患者の大きな安心にもつながりました。

ドクターネットの特徴は、事務局が在宅療養を望む患者に合った主治医と副主治医を、コーディネート（調整）する点です。事務局は、病院から依頼されると、患者情報をもとに73人の連携医へ送信。手を挙げた連携医二人は、病院へ出向き、病院主治医や訪問看護師、ケアマネジャーなどと、退院後の診療方針を話し合います。

ドクターネットには、連携医に加え、専門性の高い診療科の「協力医」44人と、大病院などに勤務する「病院医師」43人が加入しています。診療所同士の連携に病院が加わることで、医療依存度が高い患者さんでも在宅診療する体制の構築が期待できます。

24時間対応が必要な在宅診療。その心理的負担を、ドクターネットは副主治医という形で軽減しました。そして「医師が対応できない」という理由で「自宅に帰りたいけれども帰れない」患者がいなくなるよう、介護・看護職など多職種と連携しながら、その実現に取り組んでいます。

先例

precedent

地域の特性を活かした「看取り力」向上への取り組み

兵庫県おかえりなさいプロジェクト



おかえりなさい
プロジェクト 代表
さくらいクリニック
さくらい 隆 医師

<http://www.reference.co.jp/sakurai/>

「あなたもわたしも、仕事が終われば家へ帰る。それと同じように、人生という仕事が終わる時は、家に帰ろう」と始まる小冊子があります。それは、平成18年に発行されたA5版28ページ立ての「あなたの家にかえろう」。裏表紙に記載された問い合わせ先は、兵庫県尼崎市で訪問診療に取り組む、桜井医師のクリニック内になっています。

日本に在宅看取りのパネルットが無かったことから、桜井医師をはじめ、在宅医療に関わる医師や看護師、そして患者支援団体のスタッフらが「おかえりなさいプロジェクト」を立ち上げ、この小冊子を出版しました。

強い家族愛だけで、実現できると思われがちな在宅死。しかし小冊子には、家族以外の人々に援助を求める重要性が強調されています。

か、介護サービスの利用方法や日常生活での工夫などが、優しい言葉とイラストで、簡潔にまとめられています。

桜井医師は「在宅死や看取りは美談ばかりではない。理想や正解を求めないで欲しい」とした上で、全編を貫くのは「在宅死は特別なことではない」という姿勢です。

